

SUZUKA RIVER



国土交通省 三重河川国道事務所 鈴鹿出張所

ストップ！河川水難事故

鈴鹿出張所の話題（河川水難事故防止について）

★川は、自然の宝庫です！

皆さんの身近にある川は、自然がいっぱいで大変魅力的な空間です。そして、遊びの場でもあり、学びの場でもあります。また、私たちが毎日の生活を営む上で欠かせない水資源の供給源（だから皆さん、不法投棄はやめましょうね！）として、地域の人々の生活と深く関わっています。

川や水辺は、さまざまな生き物が見られ、子供はもちろん大人にとっても魚釣りや自然観察、水遊び、水泳、ボートやイカダなど一年を通じてたくさんの楽しい活動ができます。

★まずは川を知ることが大切

このように、川は自然の宝庫ですが、ひとたび水難事故に遭遇すると、こうした楽しさは全て失われてしまいます。川や水辺にひそむさまざまな危険性を知り、事前の準備と、活動中の安全管理により、事故を防ぐことは可能です。

★川にひそむ危険とは？

川には危険も沢山ひそんでいます。「より楽しく、より安全に楽しむ」の第一歩は、**川の危険を良く知ることです**。川の中や周辺でおこる危険を知っていればその危険を避けることができます。**次の図はその危険をまとめたものです**。是非参考にしてください。

①③ 上流の雨
今いる場所が晴れていても、上流の雨で一気に増水する可能性がある。急に濁りがたたり枝が流れてきたら注意。鉄砲水への注意も必要。

② ダム
上流にダムのある川では、放水による増水に注意。事前に放水情報を確認し、行動中は常に放水予告のサイレンに耳を傾けよう。

④ 水際に生い茂る草
草で見通しが悪い場所では、川に落ちる、滑って転ぶなどの危険がある。

④ 川底に岩などの障害物が多く流れの速い瀬
流れの中で立とうとしたり、川底に足を向けたりすると、岩の隙間に足をはさまれる危険性がある。特に急流では身動きのとれないことも。

⑤ 浮き石
うっかりと足をのせるとバランスを崩し落水することもある。

⑥ 流れが大きな岩や壁にぶつかるころ
水面下の岩がえぐれていることがある。そこでは下に引き込む流れが発生し引き込まれると危険。渦の中には流されてきた木の枝・ゴミ・釣り針などもあり危険な場所。

⑦ V字に波がたっている所 V字の頂点が上流側
岩や床止めなどの鉄筋の先端が、流れすれすれに隠れている。避けて通るのが安全。

⑧ 河原
植物のない河原は、雨などで川の水が増水すると浸水する可能性がある。

⑨ 中州
川の水が増水すると浸水する可能性があり、退路を断たれてしまうので注意が必要。

⑩ 水面が沸き上がっている流れ
強い流れが川底の岩にぶつかり沸き上がった流れ。大きなものは渦もたっている。

⑪ 穏やかな流れ
一見穏やかに見える流れも、川底の影響で流水は一定ではない。川の事故の約90%はこの穏やかな流れで発生している。近寄るときはライフジャケットを必ず着用するぐらいの心構えを。

⑬ 水制・橋脚・床止めなどの人工構造物

人工的な構造物の周辺では複雑な流れが発生していることが多い。引っかかってしまうと川の水圧を受けて動けなくなってしまう。

⑭ 岩

大きさ・水面の位置・形状などにより様々な流れを生む。複雑な流れを生み危険な場合もある。流水の中の岩には、特に上流側へ近づかないこと。

⑮ 反転流

岩などを回り込んだ場所やワンドでは反転流が発生している。本流に比べて流れがゆっくりではあるが流れはいずれ本流に戻るのに注意。

⑯ 川に倒れ込んだ木

流されて引っかかってしまうと川の水圧を受けて動けなくなってしまう。

⑰ 釣り針・糸

どんな場所にもある可能性があり、刺さってしまうとカエシがあり簡単には抜けない。糸が体からみついて水中に拘束される危険性もある。

⑱ 川の合流

2つの流れが合わさり複雑な波や流れが起こる。注意が必要。

⑲ 漁労施設

川幅いっぱいには縄や網を張り巡らせていることがあるので注意。

⑳ 堰堤

堰堤の下では強力な渦が発生している。均一に作られているため、横方向の流れの変化がなく抜け出すのは困難。

㉑ まっすぐで深さがあり障害物が少ない流れ

水が岸から中央に向かって流れ、岸に向かって泳いでも流されてしまう。増水時に発生しやすい。特に、コンクリート護岸で流れが直線的な場所では起きやすい。

㉒ めれた石やコンクリート

めれた石やコンクリートの上は滑りやすい。いつも水しぶきをかぶっているような岩も、コケが生えていて滑りやすい。

㉓ 川底のゴミ

ケガをするだけでなく、足をはさまれて水圧で身動きがとれなくなる例も。滞った川は川底が見えないので、何があるかわからないので十分注意しよう。

㉔ 河口付近

潮の満ち引きの影響を受ける。いつの間にか川の中央に取り残されてしまうことも。また沖に向かう潮の流れは強く、沖に流されてしまう危険性が高い。



(水辺の安全ハンドブック 河川環境管理財団 編集・発行より抜粋)

このように、川や水辺で活動しようとする時は、川にひそむ危険箇所を勉強するなど必要な準備はもちろんですが、活動場所の気象や川の情報をできる限り知ることが大切です。(詳しくは、子どもの水辺サポートセンターHPをご覧ください。)

<http://www.mizube-support-center.org/top.html>

最近では、**XバンドMPレーダ**と言って**1分間隔、250mメッシュで降雨状況が観測できるレーダ**(現在、中部・近畿・北陸・関東しか運用されていません。)もインターネットで閲覧できます。

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>

必要な情報を入手し、川での安全な活動に心がけてください。



広報誌(SUZUKA RIVER)に対するご意見及び鈴鹿川・鈴鹿川派川・内部川・安楽川に関することについてご意見やご要望がありましたら **下記の連絡先までお願いします。**

所在地 〒510-0874

四日市市河原田町1962-2

国土交通省三重河川国道事務所 鈴鹿出張所

お問い合わせ

電話 059-345-5593

FAX 059-346-4907

E-mail: mie-suzuka@mdrc.go.jp

